

資料 I . 4 . 1 「主要災害の概況」

(1) 昭和 54 年 6 月 29 日～7 月 2 日 (梅雨前線による大雨)

〈気象概況〉

6 月 26 日から 7 月 2 日にかけて、梅雨前線が長く北部九州に停滞し、また福岡県を中心に南北に反復移動したため、1 週間にわたって県下全域に継続的に多量の雨を降らせた。ところによっては 1 時間当たり 40 mm 以上を記録し、総雨量は多いところで 800 mm を超す記録的な豪雨となり大きな被害をもたらした。

〈被害状況〉

記録的な豪雨によりいたるところで中小河川がはん濫した。とくに京都・筑豊地方の被害が甚だしく、長狭川がはん濫した行橋市では、全世帯の 7 割以上の 1 万世帯が浸水した。

参考に福岡県の被害状況を次に示す。

〔福岡県の被害状況〕

- ・ 人的被害：死者・行方不明者 7 名、負傷者 41 名
- ・ 住家被害：全壊・流出 34 戸、床上浸水 4,392 戸、床下浸水 16,998 戸
- ・ そ の 他：道路 2,233 箇所、橋梁 41 箇所、河川 3,309 箇所、がけ崩れ 2,724 箇所、鉄道 12 箇所

(2) 昭和 55 年 8 月 28 日～8 月 31 日 (寒冷前線による豪雨)

〈気象概況〉

8 月 21 日から 23 日にかけて、低気圧が東シナ海から接近して九州北部を通り、これに伴った前線が南下したため大雨になり一部に被害をもたらしたが、24 日から 25 日にかけてオホーツク海高気圧の一部に覆われ一時的に回復した。しかし、25 日には低気圧が黄海に現れたため、26 日から 27 日にかけては前線が南下して雨が降った。28 日から 31 日には前線が九州北部から対馬海峡に停滞し、この前線上を低気圧が次々に通ったことや、中国華南に上陸した台風が低気圧となって北上したことも重なって前線が活発となり大雨となった。

〈被害状況〉

福岡県下では死者がでるほどの大きな被害となった。参考に福岡県の被害状況を次に示す。

〔福岡市の被害状況〕

- ・ 人的被害：死者・行方不明者 8 名、負傷者 28 名
- ・ 住家被害：全壊 44 戸、半壊 65 戸、床上浸水 2,321 戸、床下浸水 10,969 戸
- ・ 耕地被害：流出・埋没 12,363ha、冠水 12,363ha

(3) 平成 3 年 9 月 25 日～9 月 28 日 (台風第 19 号による暴風)

《気象概況》

9 月 13 日マーシャル諸島の海上で発生した台風第 19 号は発達しながらゆっくり西に進んだ。その後進行方向を次第に北に向けて 26 日に沖縄県の宮古島のすぐ東を通過して東シナ

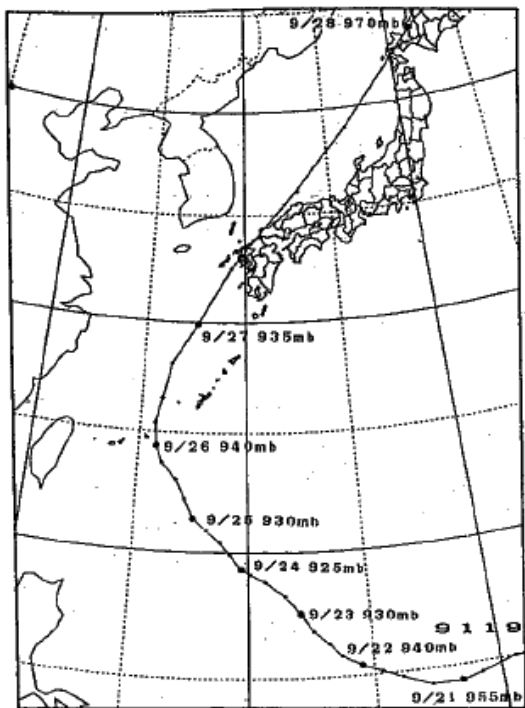
海を北上、27 日 9 時には北緯 30 度に達した。台風は進行速度を速めながら九州の西海上を北北東に進み、16 時過ぎ長崎県佐世保市の南に上陸した。台風は上陸後、佐賀県を経由して 17 時 30 分頃福岡市付近、18 時頃北九州市付近を通過、進行速度をさらに速めながら山口県から日本海へ進んだ。上陸時の台風第 19 号の中心気圧は 940hPa、中心付近の最大風速は 50m/s と非常に勢力が強かった。台風の中心気圧が 940hPa 以下のまま九州に上陸したのは、昭和 46 年 8 月 29 日に鹿児島県に上陸した台風第 23 号以来 20 年ぶりのことであった。

台風第 19 号は非常に強い勢力を保ったまま九州に上陸・通過したため九州北部地方を中心に各地で記録的な暴風が吹いた。福岡では 18 時 47 分に最大瞬間風速 44.6m/s、20 時 10 分に最大風速 18.3m/s を記録した。また、飯塚では最大瞬間風速 48.3m/s と観測開始以来第 1 位の記録を更新した。

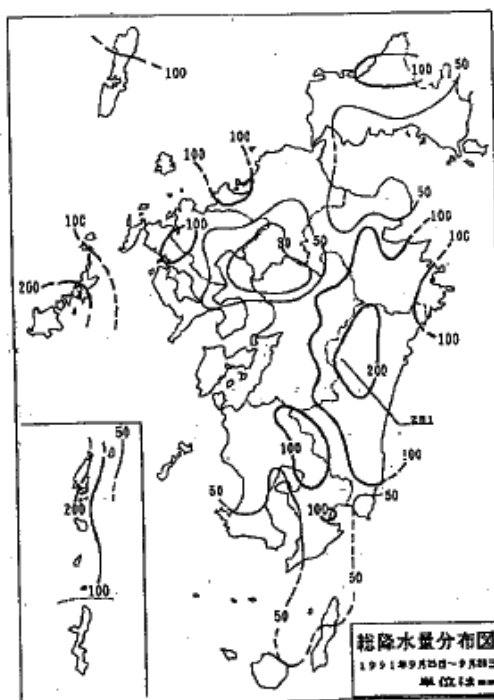
台風による強い雨は福岡・北九州地方の沿岸を中心に降り、福岡では 27 日 16 時 20 分～17 時 20 分の 1 時間に 53.5mm の雨量を観測し、9 月の最大 1 時間雨量の記録を更新した。福岡におけるこの台風の極値は、以下の通りである。

- ・最低気圧 942.8hPa (27 日 17 時 23 分)
- ・最大風速 NNW18.3m/s (27 日 20 時 10 分)
- ・最大瞬間風速 NNW44.6m/s (27 日 18 時 47 分)
- ・日最大雨量 97.5mm (27 日)
- ・最大 1 時間雨量 53.5mm (27 日 17 時 20 分まで)

【経路図 台風 19 号 9 月 21 日～9 月 28 日】



【天気図 9 月 25 日～9 月 28 日】



《被害状況》

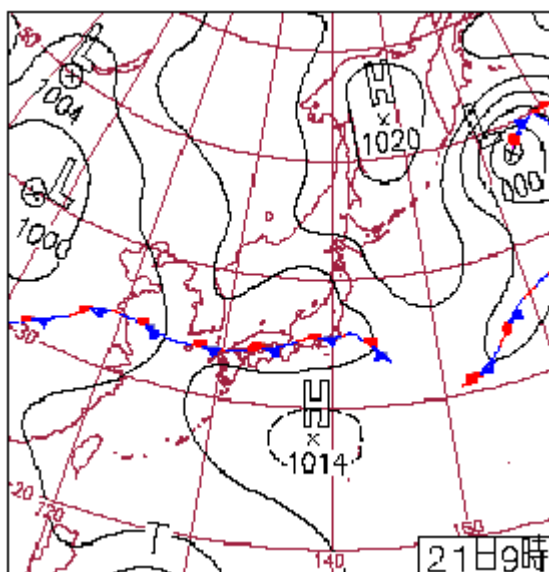
台風第19号は近年に例を見ない“風台風”であったため、福岡県下では人的・住家・農林水産業・交通・電気通信等に被害が多数発生した。人的被害としては、飛来物の直撃や倒壊した家の下敷きになって死亡・負傷する例が多く、また、博多港内で韓国の貨物船が強風で流され、防波堤に衝突、沈没しゴムボートで避難中転覆して4人が死亡、6人が負傷した。このほか、強風により停電、断水の被害が続出し、給水のため自衛隊の派遣が要請された。

福岡県における被害状況は次の通りである。

- ・人的被害：死亡11人、重傷者97人、軽傷者669人
- ・住家被害：全壊263棟、半壊4,042棟、一部損壊177,064棟、床上浸水58棟、床下浸水99棟
- ・非住家被害：公共建物1,481棟、その他44,301棟
- ・その他：田流出・埋没1.13ha、田冠水304.0ha、畑流出・埋没1.56ha、畑冠水12.0ha
道路損壊647箇所、橋梁17箇所
がけ崩れ31箇所、鉄道不通8箇所
被害船舶145隻、電話46,967回線
水道（断水）39,278戸、電気（停電）119,925戸
農業被害279.5億円、林業関係被害327.8億円
水産関係被害19.1億円

(4) 平成15年7月18日～7月21日（梅雨前線による大雨）

【天気図 7月21日】



《気象概況》

7月18日から21日にかけて、九州北部付近に停滞していた梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み、梅雨前線の活動が活発化した。このため、九州地方を中心に局地的に1時間に80mm以上の猛烈な雨を含む豪雨となった。この期間の総降水量は、所々で300mmを超えるなど、広い範囲で200mm以上の大雨となった。特に、福岡県の太宰府（アメダス観測所）では19日04時50分までの1時間に104mm（歴代1位）の猛烈な雨を含めて、03時以降1時間60mm以上の激しい雨が3時間続いた。また、熊本県の水俣市深川では、熊本県が設置した雨量計で、20日04時までの1時間に87mm、

05時までの1時間に91mmの猛烈な雨を観測し、05時までの3時間降水量は220mmに達し

た。さらに、鹿児島県の菱刈町では、鹿児島県が設置した雨量計で、20 日 03 時から 10 時にかけて 60 mm 前後の非常に激しい雨を断続的に観測し、20 日の日降水量は 555mm に達した。

《被害状況》

福岡県における被害状況は次の通りである。

- ・人的被害：死亡 1 人、重傷者 10 人、軽傷者 4 人
- ・住家被害：全壊 26 棟、半壊 56 棟、一部損壊 74 棟、床上浸水 3,472 棟、床下浸水 3,489 棟
- ・非住家被害：公共建物 6 棟、その他 1,714 棟
- ・その他：田流出・埋没 54.77ha、田冠水 1,001.00ha、畑流出・埋没 18.00ha、畑冠水 52.03ha
道路損壊 1,057 箇所、橋梁 15 箇所
がけ崩れ 1,271 箇所、鉄道不通 5 箇所
電話 18 回線
水道（断水）9,232 戸、電気（停電）627 戸
農業被害 1.4 億円、林業関係被害 0.2 億円
水産関係被害 0.03 億円

（5）平成 24 年 7 月 11 日～7 月 14 日 （梅雨前線による大雨）

〈気象概況〉

7 月 11 日から 14 日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から湿った空気が流れ込み、西日本から東日本にかけての広い範囲で大雨となった。特に九州北部地方では断続的に雷を伴って非常に激しい雨が降った。

〈被害状況〉

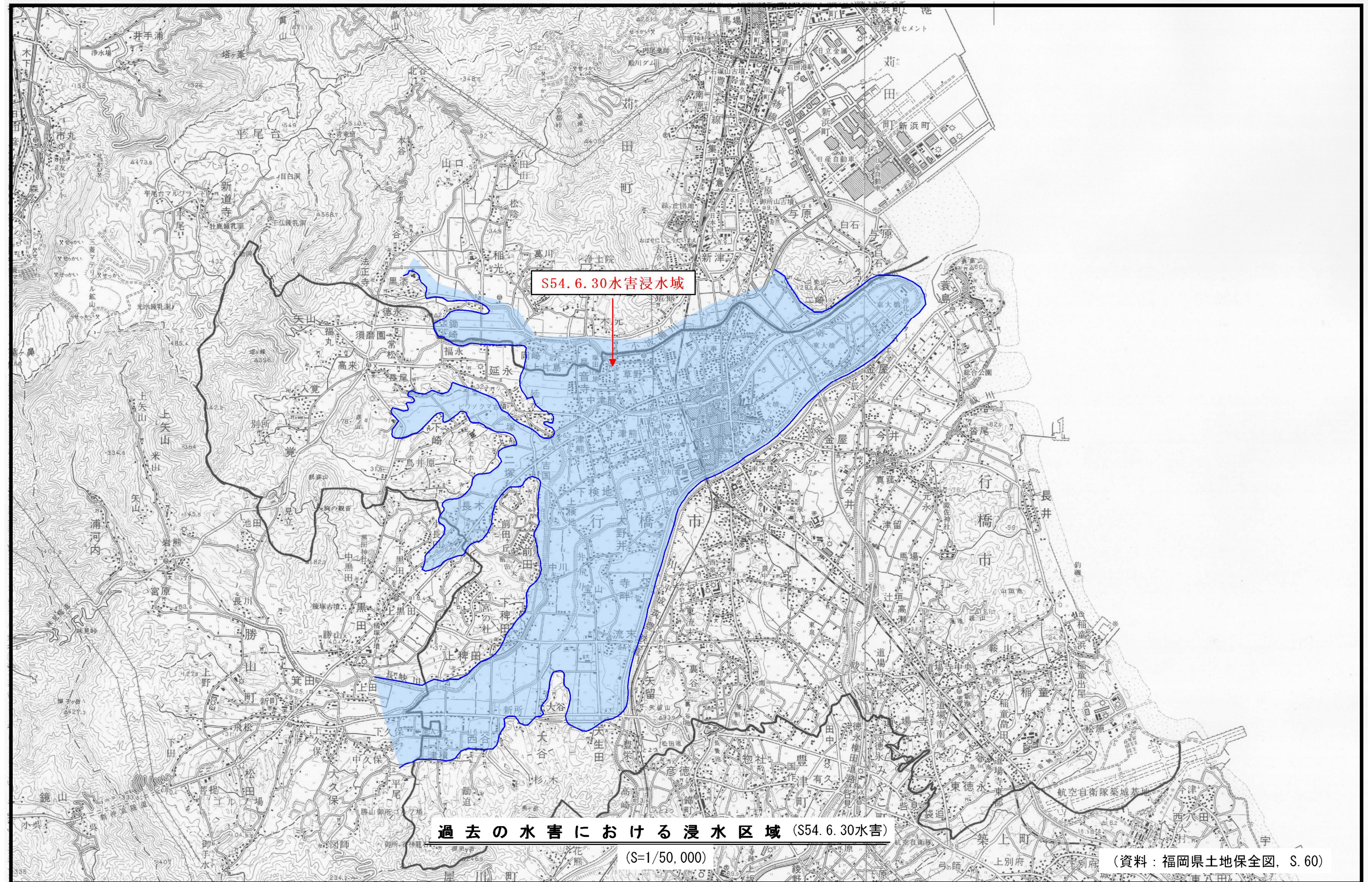
特に矢部川や沖端川では堤防が決壊し、多くの家屋が浸水被害を受けた。また、矢部川の上流に位置する支川の星野川や笠原川等においても、洪水により家屋・橋梁の流失等甚大な被害が発生した。

参考に福岡県の被害状況を次に示す。

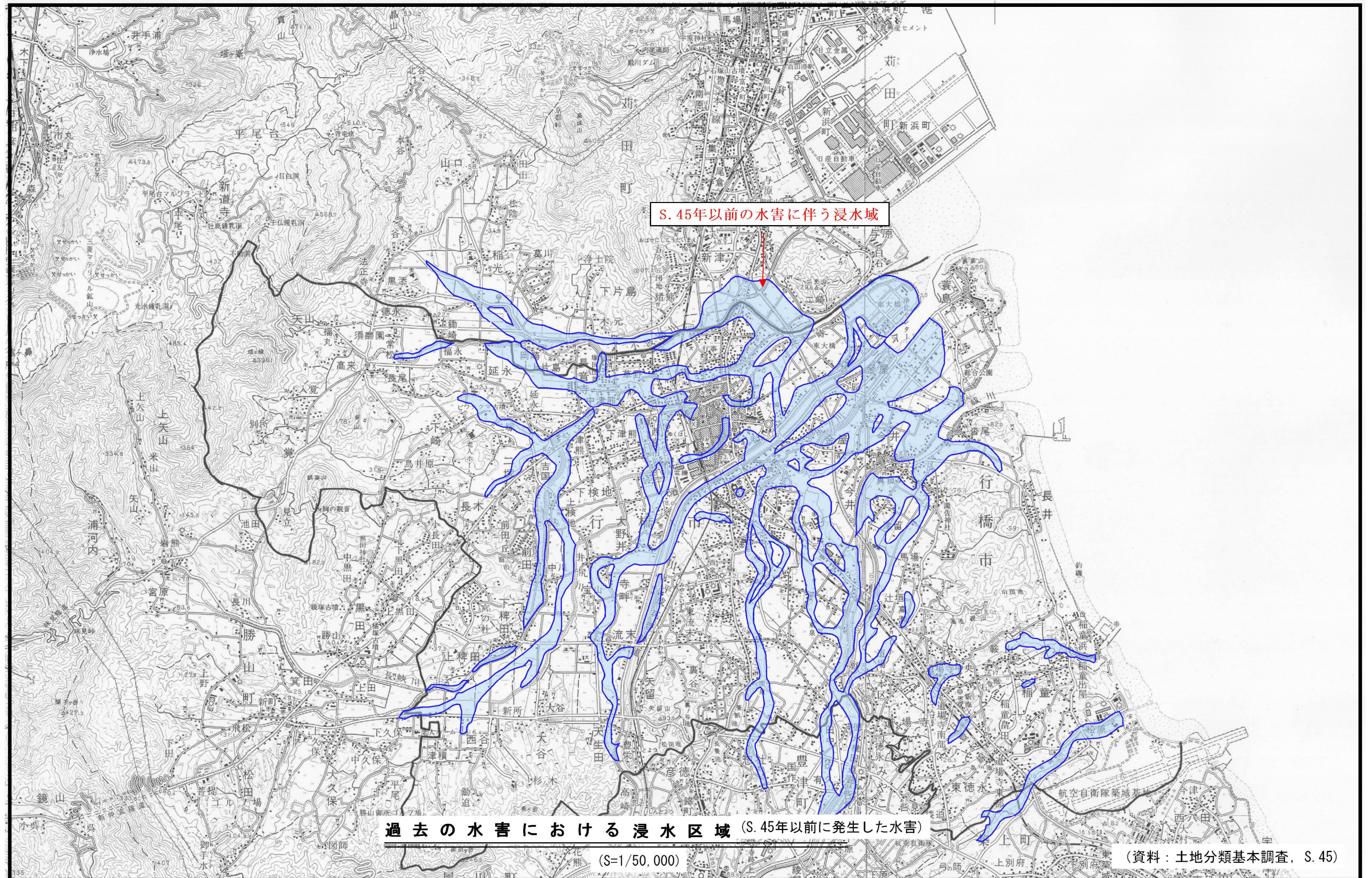
〔福岡県の被害状況〕

- ・人的被害：死者 4 名、負傷者 12 名
- ・住家被害：全壊 119 棟、半壊 67 棟、床上浸水 1,513 棟、床下浸水 4,597 棟
- ・その他：土石流等 28 件、地すべり 13 件、がけ崩れ 24 件等

資料 I.4.2(1) 「過去の水害における浸水区域(その1)」



資料 I.4.2(2) 「過去の水害における浸水区域(その2)」



資料Ⅰ.4.3(1)「被害地震履歴一覧」

番号	発 生 年 月 日 時 刻	名 称	震 源 地	規 模 (M)	震源まで の深さ (km)	震央付 近の最大 震度	福岡 (気象台) における 震度	種 別	前震 の有無	余震 の有無	被害概要
1	679. 夜	筑紫の 大地震	筑紫(?)	6.5~7.5	?	不明	不明	内陸型			家屋倒壊、地割れ
2	1596.9.4 申の刻		豊後	7	?	不明	不明	内陸型	有		7月3日から地震。高崎山崩れ、湯布院で山崩れ (瓜生島80%陥没?、死者708人)
3	1625.7.21 夜		熊本	5.0~6.0	?	不明	不明	内陸型			熊本城の火薬庫爆発、死者50人
4	1698.10.24 未の下刻		大分	6	?	不明	不明	内陸型			大分城の石垣崩れ、岡城破損。佐賀有感1日に6回
5	1700.4.15		杵岐・対馬	7	?	強	不明	内陸型	有	有	家屋・石垣崩れる、対馬・杵岐で強震にて被害、 佐賀・平戸瓦落ちる
6	1703.6.22		小城	不明	?	不明	不明	内陸型			小城古湯温泉の城山崩れ、久留米有感。
7	1703.12.31 丑の刻		湯布院・庄内	6.5±1/4	?	不明	不明	内陸型			家屋破損、石垣崩れ、地割れ、死者1名。大分 府内被害無し。
8	1705.5.24 丑の刻		阿蘇付近	不明	?	不明	不明	内陸型			阿蘇で坊大破、岡城石垣崩れ。熊本城中被害無 し。
9	1706.11.26 夜		筑後	不明	?	不明	不明	内陸型		有	久留米、柳川で揺れ。堀の水ゆり上げ魚死。 7回地震有り。
10	1723.12.18 朝五ツ		肥後・豊後 ・筑後	6.5±1/4	?	V	不明	内陸型			肥後で倒家980戸、死者2人、負傷者25人、玉名 で地割れ噴水、柳川強く感じる。
11	1792.5.21 西の刻過		雲仙岳	6.4	?	V~VI	不明	内陸型			地割れ、潰家、死者2人、眉山崩壊。
12	1831.11.14 丑の刻		肥前	6.1	?	不明	不明	内陸型			佐賀城の石垣崩れ、潰家有り。
13	1848.1.10		筑後	5.9	?	不明	不明	内陸型			柳川で家屋倒壊あり。
14	1854.12.26 朝四ツ		伊予西部	7.3~7.5	?	VI	不明	海洋型			豊後・小倉で家々潰れる。鶴崎で倒れ屋敷100戸
15	1872.3.14 17時頃	浜田地震	石見・出雲	7.1	?	VI	不明	海洋型	有		久留米で液状化による被害。
16	1889.7.28 23:45		熊本付近	6.3	?	V~VI	強 筑後	内陸型		有	熊本市付近で被害大。熊本市、飽田郡で死者20人、 負傷者74人 山鹿・菊池で家屋倒壊。地割れ・石垣崩れ。熊本震度 V
17	1891.10.16 7:06		豊後水道	6.3	?	強	不明	内陸型			豊後東部で家屋壁亀裂、瓦落下、石垣潰れ。
18	1894.8.8 23:19		熊本県中部	6.3	?	強	強 筑後	内陸型		有	阿蘇郡で家屋土蔵の破損。 強肥後 筑後 豊後
19	1895.8.27 22:42		熊本	6.3	?	強	不明	内陸型			阿蘇郡で土蔵破損、堤防亀裂、石垣崩壊。
20	1898.8.10 21:57		福岡市付近 (糸島半島)	6	?	強	強 福岡	内陸型		有	糸島半島で負傷3人、家屋土蔵破損。12日08:36(M5.8) にも余震。この地震で福岡市で家屋土蔵の壁亀裂。
21	1899.11.25 3:43		日向灘	7.1	?	強	強 筑後	海洋型			宮崎市で家屋破損、瓦壁土落下。3:43 M7.1、3:55 M6.9。第二の地震では大分で家屋土蔵破損。細島津 波32cm。
22	1907.3.10 22:03		熊本県中部	5.4	?	不明	不明	内陸型	有		植木町で煙突破損、倉庫亀裂、山鹿町で微少被害。 IV熊本
23	1911.8.22 7:48		阿蘇山付近	5.7	?	不明	不明	内陸型			阿蘇郡長陽村で石垣破損、山崩れ。
24	1916.3.6 18:12		大分県北部	6.1	?	不明	不明	内陸型			大野郡三重町で忠魂碑1倒れる。
25	1922.12.8 1:50		千々石湾	6.9	?	不明	不明	内陸型	有		北有馬で死者11人、住家全壊13戸、東有家で死者 4人、島原半島で地割れ、山崩れ 長崎V
26	1922.12.8 11:02		千々石湾	6.5	?	不明	不明	内陸型	有		小浜で被害。死者3人、家屋倒壊70戸。IV長崎
27	1925.8.10 9:37		日田地方	4.4	?	不明	不明	内陸型	有	有	地面の亀裂、地下水異常。同月4~13日の間に21回 の有感地震。
28	1928.11.5 13:41		大分県西部	4.7	0	III	I 福岡	内陸型			北小国地方で小がけ崩れ4箇所。
29	1929.1.2 1:40		福岡県南部	5.5	20	III	I 福岡	内陸型			小国地方で家屋半潰1戸、県道の亀裂・落石・がけ崩 れ。石灯笼・墓石の転倒有り。

資料 I . 4. 3 (2) 「被害地震履歴一覧」

番号	発 生 年 月 日 時 刻	名 称	震 源 地	規 模 (M)	震源までの 深さ (km)	震央付 近の最 大震度	福岡 (气象台)に おける震度	種 別	前震 の有無	余震 の有無	被害概要
30	1929. 8. 8 22:33		福岡県	5.1	0	Ⅲ	Ⅲ 福岡	内陸型			雷山付近。震央付近で壁亀裂がけ崩れ等。
31	1930. 2. 5 22:28		福岡県西部	5	30	Ⅲ	Ⅲ 福岡	内陸型		有	雷山付近。小がけ崩れ、地割れ(7日12:35強い余震)
32	1933. 4. 8 20:54		熊本県中部	4.3	30	Ⅲ	I 福岡	内陸型			緑川流域でがけ崩れ有り。
33	1937. 1. 27 16:04		熊本付近	5.1	30	Ⅳ	Ⅱ 福岡	内陸型			上益城郡秋津村で長さ10間(18m)幅3尺(0.9m)の石橋が大音響とともに崩れ落ちた。
34	1941. 11. 19 1:46		日向灘	7.2	0	V	Ⅲ 福岡	海洋型		有	延岡で石垣破損、道路亀裂、堤防破損、壁剥落、煙突倒れる 人吉で死者1人、負傷者5人、住宅全壊6戸、半壊11戸、細島で津波1m V宮崎、人吉 Ⅲ福岡、下関、萩
35	1947. 5. 9 23:05		日田地方	5.5	0	Ⅲ	Ⅱ 福岡	内陸型		有	日田、三芳で壁亀裂・剥落、がけ崩れ、道路破損、紡績転倒等の小被害。 余震数日続いた。
36	1966. 11. 12 21:01		有明海	5.5	20	Ⅲ	Ⅲ 福岡	内陸型			屋根瓦、壁崩れる。
37	1968. 2. 21 10:45	えびの地震	霧島山北麓	6.1	0	V	Ⅲ 福岡	内陸型		有	死者3人、負傷者42人、住宅全壊368戸、道路損壊73箇所、山崩れ44箇所、鉄道被害6箇所 1967年11月17日から地震発生、2/21, 2/22, 3/25(2回)震度V(震央付近) 京町では全壊率50%
38	1968. 8. 6 10:17		愛媛県西方沖	6.6	40	V	Ⅳ 福岡	海洋型			大分で家屋全焼1戸、道路損壊、山崩れ(愛媛で負傷者15人) 愛媛県を中心に被害。宇和島で重油タンクのパイプ折損し、海上流出。
39	1972. 9. 6 20:42		有明海	5.2	10	Ⅲ	Ⅱ 福岡	海洋型			清水、坪井、京町、池田町で停電(25,000戸)
40	1975. 1. 23 23:19		阿蘇山北縁	6.1	0	V	Ⅲ 福岡	内陸型		有	熊本県負傷者10人、建物被害、道路損壊、山崩れ、大分県建物被害、山崩れ (震央付近震度V 22日にもほぼ同じ場所でM5.5の地震あり) V阿蘇山 Ⅳ熊本 Ⅲ大分 延岡 佐賀 福岡
41	1975. 4. 21 2:35		大分県中部	6.4	0	Ⅳ	Ⅲ 福岡	内陸型		有	大分県重軽傷者22人、住家全壊58戸、道路被害128箇所、鉄道被害28箇所 家屋被害率100%地区あり。震央付近で発光現象(レザイトホテルIF潰れる) Ⅳ大分 阿蘇山 Ⅲ延岡 福岡
42	1984. 8. 6 17:30		島原半島西部	5.7	7	V	Ⅱ 福岡	内陸型		有	群発地震。17時28分から24時までに197回の有感地震。最大震度はV。 小浜町で家屋一部破損53戸、壁亀裂、石垣破損、墓石転倒有り。
43	1991. 10. 28 10:09		周防灘沖	6.0	19		Ⅳ 福岡	海洋型			文教施設若干の被害
44	2005. 3. 20 10:53	福岡県西方沖	福岡県西方沖	7.0	9					有	6弱：福岡県 福岡市東区東浜、福岡市中央区舞鶴、前原市前原西、佐賀県 みやき町北茂安 被害：死者1名、負傷者1,087名 住家全壊143棟、住家半壊352棟など 津波予報：気象庁は10:57、福岡県日本海沿岸と志岐・対馬に「津波注意」の津波注意報を発表した。12:00に津波注意報を解除した。

：福岡県内を震源とする被害地震

(強：Ⅳ～Ⅴ、烈：Ⅴ～Ⅵ)

資料；新編 被害地震総覧(東京大学出版会)

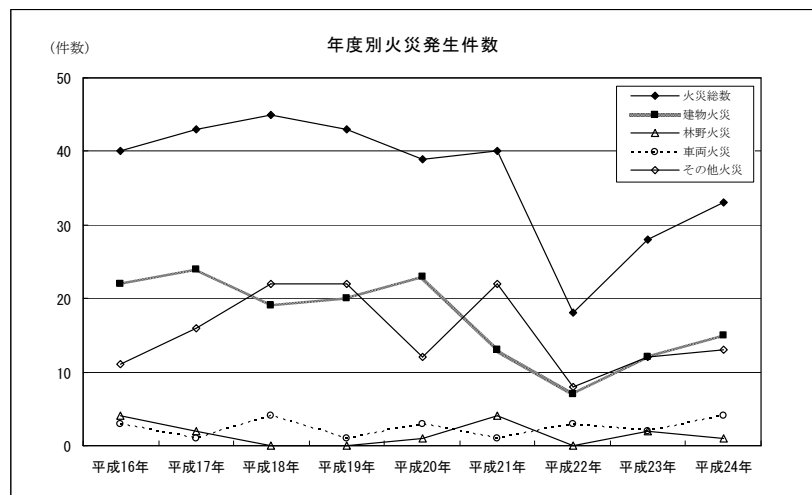
資料 I . 4 . 4 「平成16年～平成24年の火災発生資料」

過去9年間の出火件数一覧表

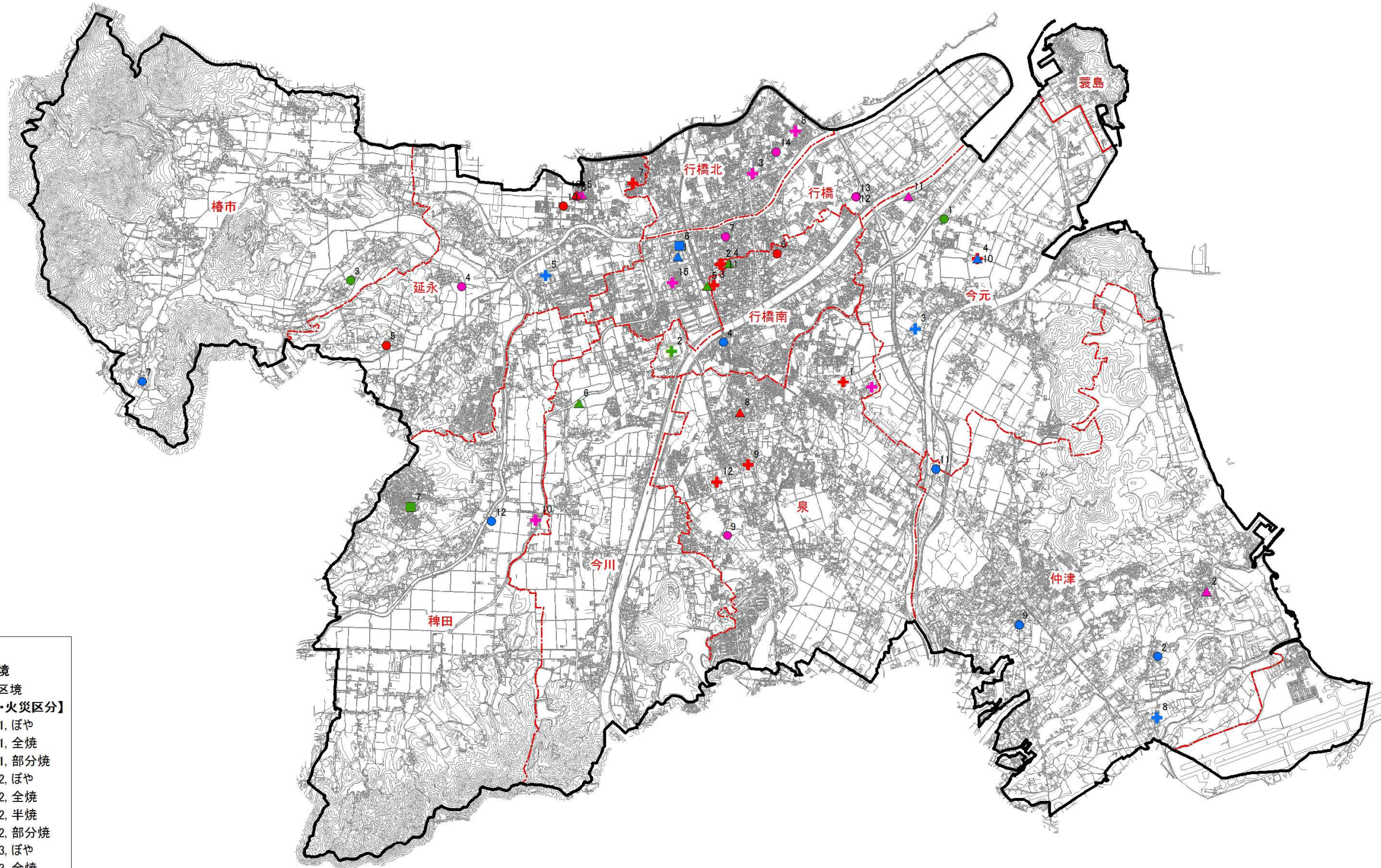
種別	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
火災総数	40	43	45	43	39	40	18	28	33
建物火災	22	24	19	20	23	13	7	12	15
林野火災	4	2	0	0	1	4	0	2	1
車両火災	3	1	4	1	3	1	3	2	4
その他火災	11	16	22	22	12	22	8	12	13

平成16年～平成24年の火災統計表

種別	単位	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
火災件数	件	40	43	45	43	39	40	18	28	33
建物火災	件	22	24	19	20	23	13	7	12	15
林野火災	件	4	2	0	0	1	4	0	2	1
車両火災	件	3	1	4	1	3	1	3	2	4
その他火災	件	11	16	22	22	12	22	8	12	13
総損害見積額	千円	6,795	60,163	47,500	33,771	56,452	24,050	16,506	38,282	47,417
建物火災	千円	67,320	59,364	43,405	33,671	54,902	23,782	16,323	38,127	44,278
林野火災	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
車両火災	千円	630	800	3,000	100	1,385	5	180	25	2,244
その他火災	千円	0	0	1,095	0	12	263	3	130	895
建物焼失総面積	㎡	970	1,021	1,093	738	858	375	1,356	1,228	1,444
林野焼失総面積	a	603	0	0	0	35	0	0	1,650	0
焼損建物棟数	棟	32	34	27	26	26	17	8	16	23
り災世帯数	世帯	18	25	19	22	16	10	2	11	14
り災人員総数	人	57	78	78	49	33	24	10	26	35
死者の数	人	4	2	0	1	0	0	0	2	0
負傷者の数	人	2	3	2	1	3	3	1	3	1
1人当の損害額	円	947	838	662	471	787	334	229	529	657
1世帯等の損害額	円	3,775	2,239	1,756	1,232	2,019	847	573	1,302	1,596
火災1件の損害額	千円	1,699	1,399	1,056	785	1,447	601	917	1,367	1,437
火災件数	件	3.3	3.6	3	3.6	3	3	1.5	2.3	2.8
焼損棟数	棟	2.7	2.8	2.3	2.2	2	1	0.5	1.3	1.7
建物焼失面積	㎡	80	85.1	91.1	61.5	72	31	113	102	120
林野焼失面積	a	50.3	0	0	0	3	0	0	150	0
り災世帯数	世帯	1.5	2.1	1.6	1.8	1	1	0.17	0.9	1.2
行橋市の人口	人	71,699	71,783	71,679	71,696	71,773	71,907	71,981	72,338	72,195



資料 I . 4 . 5 「平成 21 年～平成 24 年建物火災発生位置図」



- 凡例
- 市境
 - 校区境
- 【発生年・火災区分】
- H21, ほや
 - H21, 全焼
 - H21, 部分焼
 - H22, ほや
 - H22, 全焼
 - H22, 半焼
 - H22, 部分焼
 - H23, ほや
 - H23, 全焼
 - H23, 半焼
 - H23, 部分焼
 - H24, ほや
 - H24, 全焼
 - H24, 部分焼

1 0.5 0 1 2 km

資料 I.4.6 「地震と活断層との関係」

活断層とは、第四紀（200 万年前から現在まで）に繰り返し活動し、今後も活動すると思われる断層のことである。この活断層がずれることによって地震が発生するが、一般に地殻上部(20 km 以浅)におけるマグニチュード 7.0 程度以上の地震の場合、その震源となった断層に沿った岩盤のずれは地表まで届き、地表地震断層として観察される。

地形・地質的な線状構造であるリニアメントや断層が、活断層のためのものであるかどうかの確実性については、「新編 日本の活断層（1991）」により以下のように区分される。

活断層の確実度

- ① 確実度Ⅰ....活断層であることが確実なもの
「活断層の位置や変位の向きがともに明確なもの」をいう。
- ② 確実度Ⅱ....活断層であると推定されるもの
「位置が明らかであり、変位の向きが推定できるもの」、確実度Ⅰと判定できるほど確定的な地形・地質的な証拠がない場合である。
- ③ 確実度Ⅲ....活断層の疑いのある地形・地質の分離線形のもの
「変位の向きが不明で、他の原因も考えられるような分離線形のもの」、下記に示す活動度C級以下の活断層である。

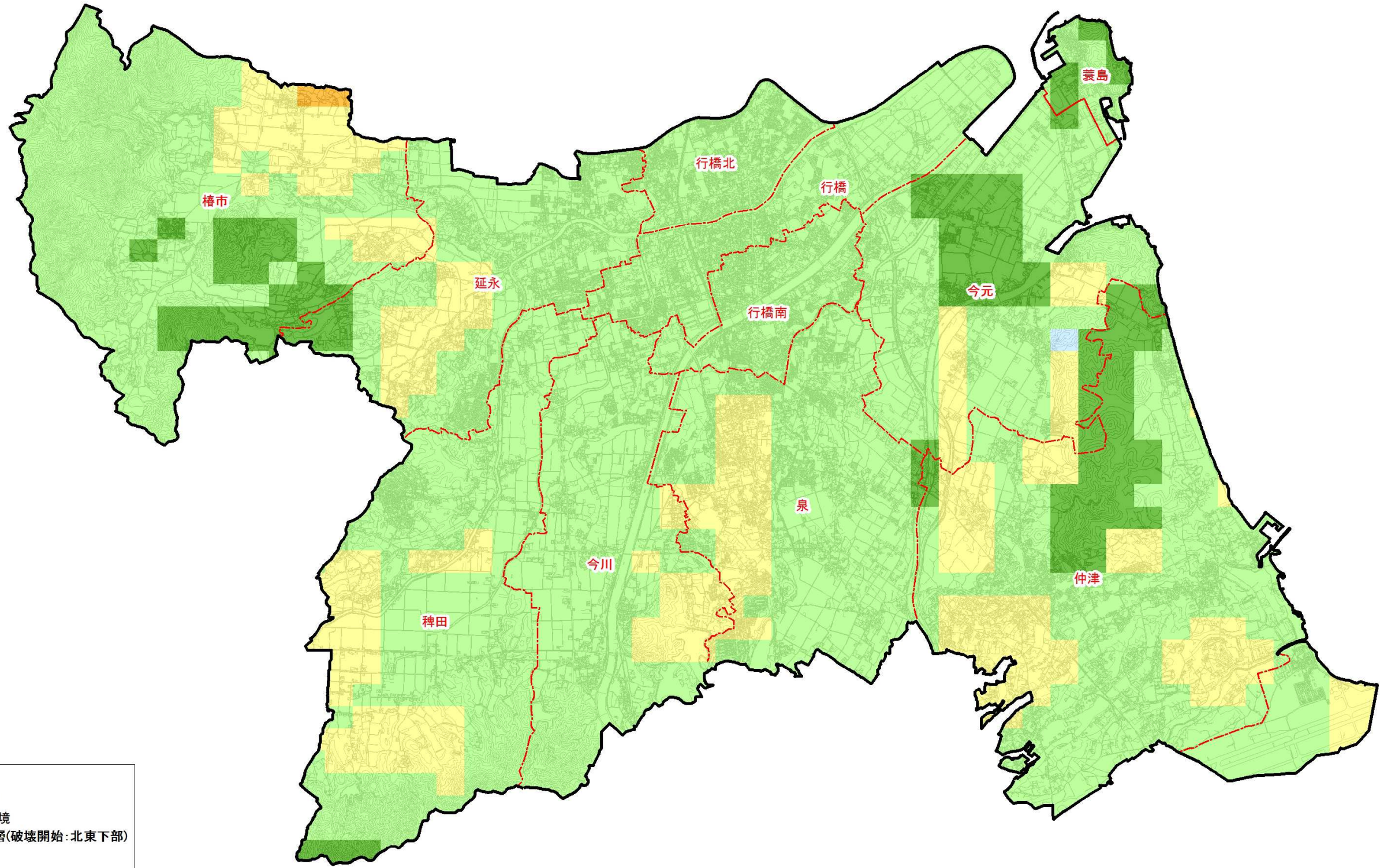
また、第四紀における活断層の活動の程度を活動度と呼ぶ。第四紀の基準地形や第四紀層の変位量を、形成時から現在までの年数で割った値を平均変位速度という。この平均変位速度S（1,000 年間に平均化した変位速度：m）によって、A・B・C級に分類されている。ここに示した活動度は、大地震の周期や今後の活動時期の推定のための重要な指標である。

地震の活動度・周期等については、断層の正確な位置を把握したうえで、その活動年代及び周期を直接的に把握できるような調査が必要となる。地震災害という観点から考えた場合、数万年前単位での活動状況のみならず、特に千年・百年単位での活動状況が問題となる。県内における主な活断層の活動度概要や分布を以下に示す。

活動度（平均変位速度S）

- ① A級： $10\text{m} > S \geq 1\text{m}$ （1m/1,000年の単位）
- ② B級： $1\text{m} > S \geq 0.1\text{m}$ （0.1m/1,000年の単位）
- ③ C級： $0.1\text{m} > S \geq 0.01\text{m}$ （0.01m/1,000年の単位）

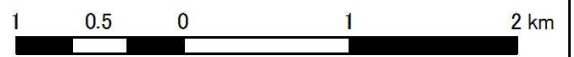
資料 I.4.7(1) 「福岡県の地震アセスメントによる震度分布図(小倉東断層北東下部)」



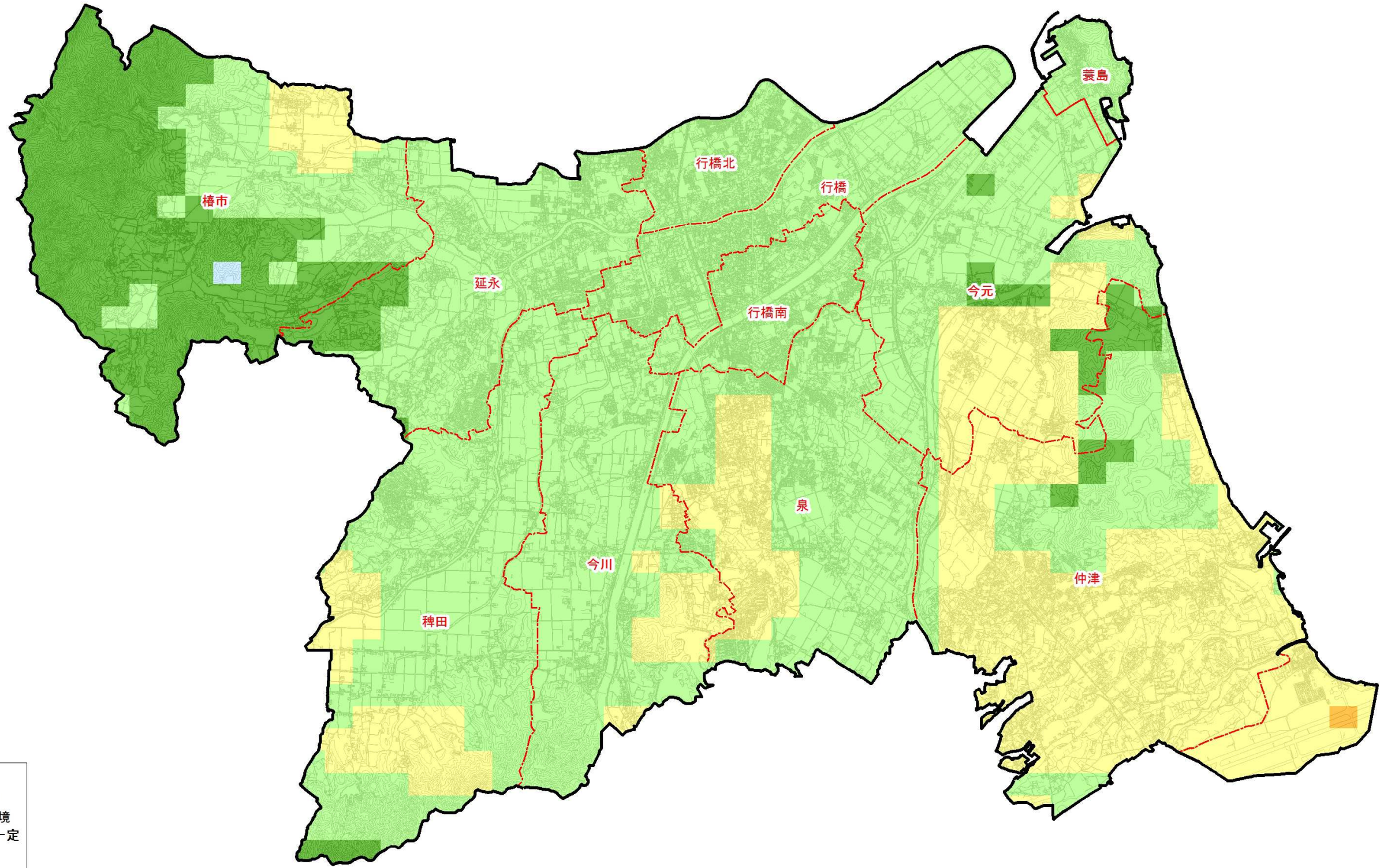
凡例
市境
校区境
小倉東断層(破壊開始:北東下部)
震度階級
6強
6弱
5強
5弱
4
3以下

震度分布図【小倉東断層北東下部】

(出典：福岡県 (H24.3) : 地震に関する防災アセスメント調査報告書)



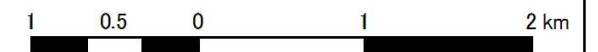
資料I.4.7(2)「福岡県の地震アセスメントによる震度分布図(基盤震動一定)」



- 凡例
- 市境
 - 校区境
 - 基盤震動一定
 - 震度階級
 - 6強
 - 6弱
 - 5強
 - 5弱
 - 4
 - 3以下

震度分布図【基盤震動一定】

(出典：福岡県 (H24.3) : 地震に関する防災アセスメント調査報告書)

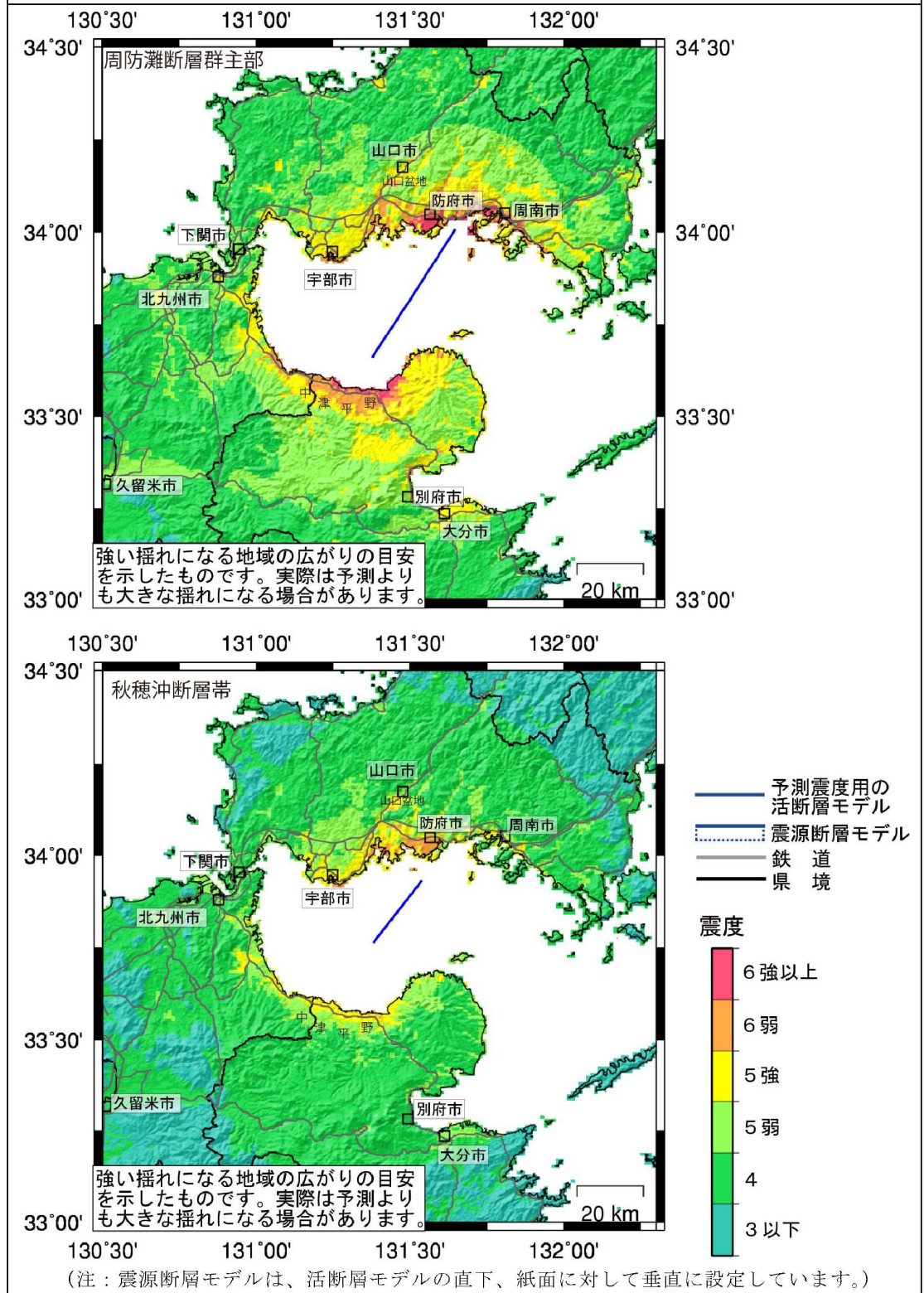


資料 I . 4 . 8 (1) 「宇部沖断層群(周防灘断層群)の地震による予測震度分布」

平成 20 年 11 月 17 日

【参考】宇部沖断層群(周防灘断層群)の地震による予測震度分布

地震調査研究推進本部 事務局



資料 I . 4 . 8 (2) 「宇部沖断層群(周防灘断層群)の地震による予測震度分布」

